＜先週の説教から＞

## 『ヘブライ㉛ー出エジプトの信仰！』

武田真治牧師

**出エジプト記 12：21~28　ヘブライ書 11：27~29**

“信仰の章”と呼ばれるヘブライ書の 11 章の 24 節からはモーセの信仰について3度も触れられます。その3番目はエジプトを出る際の彼の信仰が取り上げられています。

即ち「信仰によって、モーセは滅ぼす者が長子たちに手を下すことがないように、過ぎ越しの食事をし、小羊の血を振りかけました。」です。ここで「滅ぼす者」という言葉が出てきます。何か悪魔や死霊を思い浮かべてしまいますが、これは何でしょうか？　実は今日の旧約聖書、出エジプト記 12 章に出て来たのでした。「主がエジプト人を撃つために巡るとき、鴨居と二本の柱に塗られた血を御覧になって、その入り口を過ぎ越される。滅ぼす者が家に入って、あなたがたを撃つことがないためである」と。従って、滅ぼす者は「主」の使者だということが分かります。同じ言葉がサムエル記下 24 章 16 節では “滅びの天使” として出てきます。後のヨハネ黙示録８章にあるこの世を滅ぼす７人の天使へと繋がりますね。神様が “救い出そう” と動かれる時は、その一方で、ある人々にとっては “裁き＝滅び” となるということを如実に表しています。また、もう一つ考えさせられることはこのエジプトから救出された事は、特にモーセが “過越しの食事” と “小羊の血を振りかけた” によって実現したと見ている点です。他にも様々な取り決めや儀式があったのに。

おそらくこれはこの手紙を読んでいるキリスト者たちのことを頭に置いて “聖餐式” と “洗礼” の2つの聖礼典を指し示していると考えられます。それは、実際の出エジプトでは小羊の血は家の鴨居に「塗られた」のですが、ここでは「振りかけた」と変えられている点からも “洗礼式” が意識されているのです。従って、滅びから過ぎ越す＝救われるためにモーセが為したように、私たちにもこの２つの儀式が必要なのだと。それが「信仰によって」為されることなのだと！

もう一つ、ここではモーセだけでなく、そのモーセに率いられたイスラエルの人達の信仰も挙げられています。即ち「信仰によって、人々はまるで陸地を通るように紅海を渡りました。」と。有名な紅海を渡る “奇跡” ですが、イスラエルの人たちが、この出来事を神様の御業と信じないで、単なる偶然と思っていたら、水が元に戻らないうちにと我先に殺到したでしょう、或いは怖くて渡れなかったかもしれません。しかしこれが自分たちを守り、導く神様の御業だと信じていたから粛々と「陸地を通るように」歩いて行ったのでした。そこに彼らの「信仰」があったのです！逆に、単なる自然現象だと思って、後に続いて「同じように渡ろうとしたエジプト人たちは、おぼれて死にました。」とあります。イスラエルを救うための奇跡だとは考えなかったのです。ここも、神様が “救いへとの動かれる時” は一方では “裁きと滅びの時” ともなることがよく示されていると言い得るのでは？

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**【今週の集会】**

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．2月 15 日（水）20：00
Ⅱ．2月 16 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　灰の水曜日 2/22・レントを覚えて
担 当 者：　（水）小草　（木）冨澤
祈りに覚える人：　岩井さん　　岩佐さん
ハンナの会：　2月 14 日（火）10：30～

**【教勢報告】**

主日礼拝　　男 19　　女　57　　計　76
祈祷会 Ⅰ．男4　女2　計6　　Ⅱ．男2　女9　計11
日曜学校　　幼稚科 11　小中科 13　　計　24

**【次週主日礼拝】**　　2月　１９日（日）

聖　書：　列王記上　１９：１１～１８
ヘブライ人への手紙　１１：３２～４０
説　教：　「ヘブライ㊷―この人たちは、
信仰によって」　武田 真治 牧師
讃美歌：　２０８(1)、３２(1)、４２６(1と2)、
５０５(1と3と4)、５１０（1と2）８３(1)

**【次週当番表】**

司式:岩佐長老　奏楽:勝村 礼拝:金刺長老
献金：岩井　岩佐　　受付：飯島　吉岡
会堂準備：小杉 冨澤 長田 橘本 北條
看板：曽我　　週報：吉岡　　お花：羽倉

**【次週集会予定】**　礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・オリブの葉編集委員会　・日曜学校教師会
幼稚園理事会　壮年会



# 週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　２月　１２日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/